

25年7月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 6月20日～ 7月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/7月	8月	9月
入荷動向	スギ・ヒノキ	7.7	15.4	11.5
	マツ	16.7	16.7	8.3
	広葉樹	14.7	0.0	2.9
消費動向	スギ・ヒノキ	4.2	12.5	12.5
	マツ	22.7	18.2	9.1
	広葉樹	6.3	3.1	0.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	0.0	4.2	12.5
	マツ	4.2	12.5	4.2
	広葉樹	13.3	6.7	3.3

入荷はスギ・ヒノキ及びマツは7,8及び9月ともマイナス基調で推移。広葉樹は7月の減少から8月の横ばいを経て9月は減少に。
消費はスギ・ヒノキ、マツともにマイナス基調で推移、広葉樹は7月の増加が8月の減少を経て9月には横ばいに。
在庫はスギ・ヒノキ及びマツとも7月の横ばいまたは減少から8月の減少を経て9月には増加に、広葉樹はマイナス基調で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/7月	8月	9月
スギ・ヒノキ	8.3	0.0	0.0
マツ類	9.1	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

スギ・ヒノキ、マツとも7月のマイナスが8,9月はゼロに、広葉樹は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)・変動なし。・入荷が途切れずにある状態、消費は前年と同じ、在庫やや増加。素材業者がスギ伐採に集中し、チップ材入荷現象。・6月は田植えの影響で入荷減、7,8月はやや増加。・スギ、ヒノキは国有林システム販売材の入荷が計画通り進み、民有林材の間伐材も出て山は運搬待ち。・円安で輸入チップ高騰しこれ以上の国内チップの減産はない。在庫はゼロ。仕入は広葉樹原木入荷が6月比30%減少。・仕入れは針葉樹増加傾向、広葉樹横ばい、消費は製紙工場修理で減少、在庫は針葉樹増加傾向、広葉樹在庫無くその日暮らし。・梅雨に係わらず順調に入荷。出材、7月は針葉樹間伐のため広葉樹が減少、消費は製紙受入れも始まり平常に戻る。暑さで出材少なく在庫減少気味。スギ・ヒノキは入荷ストップ、全樹種梅雨時期で入荷減少、マツ類は8月以降出材予定あり。

(原木価格)・過去4年間価格変動なし。・変動なし。・針葉樹は6月より若干値上げし7月も同額で対応。・針葉樹は7月からm3当たり300～500円値下げ、広葉樹横ばい。

25年7月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/7月	8月	9月
生産動向	スギ・ヒノキ	8.3	8.3	8.3
	マツ類	31.8	13.6	13.6
	広葉樹	3.1	3.1	0.0
出荷動向	スギ・ヒノキ	26.9	16.7	8.3
	マツ類	36.4	27.3	22.7
	広葉樹	3.1	3.1	0.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	5.0	20.0	0.0
	マツ類	5.6	11.1	0.0
	広葉樹	11.5	15.4	26.9

生産及び出荷はスギ・ヒノキ及びマツはマイナス基調で推移、広葉樹は7月の増加から8月減少を経て9月は横ばいに。
在庫はスギ・ヒノキは7,8月の減少が9月は横ばいに、マツは7月増加が9月に向け横ばいに、広葉樹はマイナス基調で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)

品目	25/7月	8月	9月
スギ・ヒノキ類	8.3	0.0	0.0
マツ類	9.1	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	3.1

スギ・ヒノキ及びマツは7月の少し下げが9月に向け横ばいに、広葉樹は7,8月横ばいが9月はプラスに。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・変動なし。
- ・前年と同じ水準。
- ・製紙会社の生産体制で増産もあれば制限もある、運賃値上げの話なく出荷は順調。
- ・今後燃料用が増加する見込み。
- ・スギ、ヒノキの製紙用は本格的には回復していない、広葉樹は先月から増産、このまま推移しそう。
- ・梅雨明けで板採材の増加により広葉樹在庫は増える。針葉樹チップの出荷は製紙会社がこの時期設備点検等で受け入れ規制するため減少する。
- ・針葉樹は製紙会社修理のため生産量減少、広葉樹は原木集荷できず生産量減少、出荷は針葉樹チケット管理で引取量抑制中、広葉樹は制限無く全量引き取り、在庫は針葉樹原木、背板とも増加、広葉樹在庫なし。
- ・7月製紙会社の設備の定期点検があり、受け入れ停止期間があるので出荷やや減。
- ・定期修理等による出荷予定の前後はあるが、月内納入はできている。

(木材チップ価格)

- ・変動なし。
- ・全く変化ない、今後発電用、間伐材からのチップ価格が決まってくる。
- ・円安といっても一度下げた単価は簡単には上げない。
- ・針葉樹7月からBDkg当たり0.30円値下げ、広葉樹は横ばい。
- ・円安になるも値上げなし。